

各 位

上場会社名 シーシーエス株式会社
 代表者 代表取締役社長 米田 賢治
 (コード番号 6669)
 問合せ先責任者 取締役 高山 啓
 (TEL 075-415-8280)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年12月9日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位: 百万円)

平成21年7月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,300	△100	△90	△55	△2,701.11
今回発表予想(B)	1,980	△170	△140	△90	△4,501.80
増減額(B-A)	△320	△70	△50	△35	――
増減率(%)	△13.9	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年7月期第2四半期)	2,723	414	401	261	12,812.74

平成21年7月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,000	100	110	65	3,192.22
今回発表予想(B)	3,500	△800	△790	△400	△20,008.00
増減額(B-A)	△1,500	△900	△900	△465	――
増減率(%)	△30.0	――	――	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年7月期)	5,602	779	765	501	24,503.52

平成21年7月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年1月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,000	△70	△80	△50	△2,455.55
今回発表予想(B)	1,840	△140	△160	△100	△5,002.00
増減額(B-A)	△160	△70	△80	△50	――
増減率(%)	△8.0	――	――	――	――
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年7月期第2四半期)	2,408	313	301	189	9,251.26

平成21年7月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年8月1日～平成21年7月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,400	90	95	55	2,701.11
今回発表予想(B)	3,140	△520	△550	△310	△15,506.20
増減額(B-A)	△1,260	△610	△645	△365	――
増減率(%)	△28.6	――	――	――	――
(ご参考)前期実績 (平成20年7月期)	4,887	604	600	381	18,631.95

修正の理由

(第2四半期(連結・個別)累計期間業績予想の修正理由)

当社グループの当第2四半期連結会計期間において、景気は世界的な金融危機により急激な勢いで後退し、特に12月以降は当社グループの主要顧客である電子・半導体業界、自動車関連業界をはじめとする各業界において設備投資計画の中止・延期が予想をはるかに

上回る勢いで実施されるなど、当社を取り巻く環境は急速に悪化いたしました。

このような市場環境のなか、当社の主要分野でありますマシンビジョン照明分野は、国内・海外ともに設備投資の大幅な減少から需要が低迷し、売上高および受注高は低調に推移いたしました。売上高は、国内1,436百万円(予想比91.5% 前回予想1,570百万円)、海外は504百万円(予想比76.4% 前回予想660百万円)となる見込みであります。

この結果、当第2四半期連結累計期間は、売上高1,980百万円(予想比86.1% 前回予想2,300百万円)となり、営業損失は売上高の減少による影響から170百万円(前回予想 営業損失100百万円)、経常損失は140百万円(前回予想 経常損失90百万円)、四半期純損失は90百万円(前回予想 四半期純損失55百万円)に修正いたします。

(平成21年7月期(連結・個別)通期業績予想の修正理由)

通期の業績予想につきましても、世界的な景気後退の影響により当第3四半期連結会計期間以降も消費の低迷・企業業績の低迷によって設備投資計画のさらなる中止・延期が続き、需要が大幅に減少する厳しい状況が続くと予想されます。当社が業績予測に参照している半導体・FPD製造装置需要予測(SEAJ)や機械受注統計或いは民間設備投資予測などにおいても、2009年以降は20%を上回る低下が継続するものと予測されています。

当社のマシンビジョン照明分野は、その影響を受けて、国内・海外ともに当社グループの主要顧客である電子・半導体業界、自動車関連業界等の生産・品質関連の設備投資計画の中止・延期または投資規模の縮小が予測されるため、国内の売上高は前回予想より960百万円減少の2,240百万円(前回予想3,200百万円)、海外売上高は前回予想より500百万円減少の930百万円(前回予想1,430百万円)となる見込みであります。

さらに、平成20年12月18日開催の取締役会の決議により、株式会社フェアリーエンジェルの第三者割当増資を引き受け、株式(議決権割合25.3%)の取得に伴って同社は実質子会社となりましたので、当第2四半期連結会計期間末日をみなし取得日として連結の範囲に含めております。従って、当第3四半期連結会計期間以降は同社の損益も連結対象となります。

同社は、クリーンルーム内で栽培された野菜類の販売を主な事業としておりますが、工場野菜に対する消費者の認知度は徐々に向上し、それに伴い確実に売上が拡大していく状況にあります。同社の業績につきましても、今後の伸長が十分に期待できる状況にあります。足元の業績は厳しく、当期の業績予想は、売上高180百万円、営業損失250百万円となっております。同社は創業5年足らずの成長過程にあるベンチャー企業であることから、来期からの黒字化を目指し、当社より取締役を2名派遣し、親会社として責任を持って業績拡大と収益性向上に全力を持って取り組んで参ります。

費用につきましては、売上高の減少による大幅な減益は避けられない状況であり、役員報酬の減額や管理職手当の減額等の人件費の削減、原材料・使用部材の共通化、事務効率化による経費の削減に取り組んでまいります。

この結果、通期の業績予想は、売上高は3,500百万円(予想比30%減 前回予想5,000百万円)となる見込みであります。売上高の減少および新規連結子会社の業績による影響により営業損失は800百万円(前回予想 営業利益100百万円)、経常損失は790百万円(前回予想 経常利益110百万円)、当期純損失400百万円(前回予想 当期純利益65百万円)に修正いたします。

1) 役員報酬の削減

平成21年7月期通期業績予想が当初の予想を下回るの受け、経営責任を明確にするため役員報酬の削減を実施いたします。

・ 役員報酬減額の内容

代表取締役社長 : 報酬月額20%を減額

取締役 : 報酬月額15%を減額

・ 対象期間

平成21年2月から一定の業績回復が見込めるまで。

※月額報酬額の終了の時期については、今後の業績に照らし判断いたします。

2) 役職手当の減額

・ 役職手当減額の内容

課長職以上の管理職を対象に20%~40%

・ 対象期間

平成21年2月から平成21年7月支給分まで

(配当政策に関して)

期末配当金につきましては、財務体質の強化と経営基盤の強化を図るとともに、安定的な配当の維持と適正な利益還元の実施は経営の最重要課題であるとの認識に基づき、当期の配当金は一株当たり3,000円としておりましたが、通期の業績予想の下方修正を行ったことに伴う内部留保の必要性等を鑑み、配当予想の修正について検討しております。

(注)上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上